

(第6条関係)

事業概要書

事業名	公共サイン改善事業
団体名	都市環境デザイン学研究室 公共サイン研究会
事業担当課	松戸市 街づくり部 都市計画課

取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	<p>松戸市における公共サインの改善</p> <p>松戸市街では公共サインを含め各種案内表示が乱立しており、景観の阻害や案内表示の分かり難さという問題を抱えていることから、公共サインを改善する必要性は高い。公共サインの改善に関しては、特に景観の観点からその必要性が問われてきたが、近年ではまちのアイデンティティ創出が各地の自治体で課題となっている。</p> <p>このような背景から、単なる視認性向上や多言語対応等にとどまらず、統一したイメージカラーや字体、独自のデザインによるピクトグラム等を設定することで地域性を表現する事例もみられる。しかし、松戸市はエリアにより様々な特徴を有しており、単一のイメージで語ることは難しいと考える。「松戸らしさとは何か？」と問われたとき、すぐに答えられる市民がどれだけいるだろうか。私たちは、松戸市が古くから宿場町として栄え、現在はベッドタウンとしてビジネスマンや学生、外国人等の多様な人々が特に不自由なく暮らすことができ、一見特徴のないように感じるからこそ、松戸の魅力である「住みやすさ」をあらわしているのではないかと考えた。</p> <p>今後の松戸の公共サインを考えることは、「住みやすさ」という魅力を更に高めることであると考え。松戸市の公共サインを改善することは、単に「きれいに整える」ということを目指すのではなく、市民が松戸のアイデンティティとして認識するようなアイコンとなり、市内外へ松戸の魅力をアピールするツールとなり得るような、公共サインを通した「松戸のジャンプアップ」を目指すものである。</p>
事業の目的	<p>松戸市における公共サインガイドライン策定に向けた基礎資料の作成</p> <p>上述の課題を踏まえ、公共サインの改善のためにはデザインや管理に関するガイドラインが必要不可欠であると考え。また、このガイドラインは策定しただけでは陳腐化する例も少なくないことから、私たちは行政と松戸の地域住民がともに公共サインについて考えるというプロセスを重要視しており、ガイドライン策定に向けて以下の目的を設定する。</p> <ol style="list-style-type: none">① 公共サインについて考えることを通して市民と共に「今よりもっと住みやすい松戸」を考える。② 松戸市の街全体のイメージアップにつながるサインデザインガイド策定に寄与する資料を作成する。事業は3ヶ年計画とし、最初の2年間で調査を行い最後の1年間で成果物としてまとめるという流れで行う。東京オリンピック・パラリンピックをきっかけに、松戸市にも多様な来訪者が増加することを見込んで公共サインを検討することで、地域のホスピタリティを見直すタイミングとなり、ひいては地域のコミュニティ醸成や、絆を深めることにもつなげることができる。

事業内容	<p>① 【ワークショップ】 松戸市のアイデンティティ発掘のために、学生と地域住民で班を組み、ワークショップを重ねていく。事前準備として、ワークショップ前に学生でルートを歩いて下見を行い、公共サインの現状を把握することで建設的な議論が行えるようにする。 ワークショップの内容は、「水とみどりと歴史の回廊マップ」にてルート設定されている市内6地域において、自然や歴史、地域のイメージ等から色や形でサインのモチーフやデザインツールになりそうなものをフィールドワークで探るとともにディスカッションを行い、地域毎の特徴やサインに取り入れたい地域イメージ・目指したい地域イメージを共有することとする。 対象地域は先述の「水とみどりと歴史の回廊マップ」に基づき、協働事業1年目に松戸地区、矢切地区、上本郷地区、2年目に常盤平地区、小金北地区、小金南地区で行う。</p> <p>② 【市民アンケート】 各対象地域において市民アンケートを行う。内容としては、公共サインに関する認識や旧住民と新住民の地域に対するイメージの差異、公共サインに求めるもの、地域のなかで好きな場所、公共サインを設置してほしい場所を探る項目等を想定している。アンケート方法については、地域毎の郵送調査法を想定している。</p> <p>③ 【公共サインガイドライン策定のための基礎資料】 ワークショップやアンケートの内容に基づき、松戸市における公共サインガイドラインの策定のための基礎資料を作成する。なお、事業の実施にあたりサインデザインの専門家にアドバイザーとして協力頂き、現実に即した実効性の高い資料作成に繋げる。</p>
協働の必要性	<p>松戸市の行政の視点、松戸市の住民の視点、そしてランドスケープを学ぶ学生ならではの視点という、官民学が協働で行うことで、多様な視点で公共サインを考えることができる。さらに、協働で行うことによって公共サインは行政のものというイメージから地域のものというイメージへ変えることができ、松戸市民の地域への愛着を高め、来訪者に対する松戸地域のホスピタリティを見直すタイミングとなる。</p>
事業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップは地域毎に行うが、6地域共通の検討項目を3つ以上設定し、公共サインガイドラインの基礎資料として有効なものを住民と共につくりあげることとする。項目の案としては、地域の特色を表す色・形のモチーフ・地域の将来像を表すキーワード等を想定している。 ・住民と学生で共に行う各地域のワークショップを計3回以上（必要に応じて各地域2回）開催する。

(第6条関係)

事業の予算概要

【労力換算（限度額算入）】

(単位:円)

区分	科目	金額	積算内訳
団体	労力換算額 (A)	¥ 282,912	※別紙 労力換算計算書 参照

【収入】

区分	科目	金額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥ 7,500	対象事業費の一部を団体の会計より拠出
	ワークショップ参加料	¥ 12,000	200円×10名分×6回
	自己資金の合計額 (B)	¥ 19,500	
市	協働事業負担金 (C)	¥ 174,000	
	合計額(D)=(B+C)	¥ 193,500	

【支出】

区分	科目	予算額	積算内訳	
負担金の交付対象経費	報償費	¥ 120,000	外部アドバイザー謝礼 ワークショップ：15,000円×6、打合せ10,000円×3回	
	消耗品費	¥ 1,500	事務用紙 A4 普通紙500枚入り*5冊*1箱	
		¥ 3,000	ワークショップ用備品(ペン、付箋紙、ネームプレート等)	
	食糧費	¥ 6,000	ワークショップ参加者用お茶・お菓子、アドバイザー用水代 1,000円×6回	
	通信費	¥ 53,000	アンケート郵送調査用切手代 往信：92円×100通×3回 他 返信：82円×100通×3回	
	使用料	¥ 4,000	ワークショップ会場使用料 210円×4時間×3回 210円×2時間×3回程度	
	保険料	¥ 6,000	行事保険 ワークショップ：100円×10名×6回	
		対象経費の合計(E)	¥ 193,500	
(その他経費)				
	その他経費の合計額(F)	¥ 0		
	合計額(G)=(E+F)	¥ 193,500		

【チェック項目】

- 1 協働事業負担金(C)が、対象となる経費(E)欄の90%以内であること。
- 2 協働事業負担金(C)が、自己資金(B)欄に労力換算額(A)欄を加えた額を超えないこと。
- 3 協働事業負担金については、50万円を上限とする。

労力換算計算書

(単位:円)

項 目		換算額	積算内訳
労力換算額	活動計画		人数×時間回数×842円
	ワークショップ企画打合せ	20,208 円	8 人 × 1 h × 3 回 × 842 円
	ワークショップ事前準備	60,624 円	8 人 × 3 h × 3 回 × 842 円
	ワークショップ実施	121,248 円	8 人 × 3 h × 6 回 × 842 円
	市民アンケート企画打合せ	20,208 円	8 人 × 1 h × 3 回 × 842 円
	市民アンケート事前準備	5,052 円	2 人 × 1 h × 3 回 × 842 円
	市民アンケート集計・分析	10,104 円	2 人 × 2 h × 3 回 × 842 円
	アドバイザーとの打合せ	5,052 円	2 人 × 1 h × 3 回 × 842 円
	公共サインガイドライン基礎資料作成	40,416 円	8 人 × 2 h × 3 回 × 842 円
	合計 (A)	282,912 円	